

平成30年度 再評価対象事業一覧表（農業農村整備・県事業）

番号	事業名	地区名等	箇所名	基本諸元（全体事業費・受益面積等）			事業採択	経過年数	区分	事業費進捗率（%）	事業を巡る社会経済情勢の変化及び地元状況等	対応方針
				全体事業費 百万円	受益面積 ha	事業内容						
1	国営付帯県営農地防災事業	大幸西	鳴門市	310	38.7	管水路工38.7ha 揚水機場1箇所	H26	5	②	78%	本地区は、近年の混住化等による農業用水の水質悪化や、用排水施設の機能の低下により維持管理費が増大していることから、国営総合農地防災事業吉野川下流域関連事業として、農業用水の水質改善、用水施設の機能回復とパイプライン化による維持管理費の節減を図り、国営事業と一体的な整備を進めている。地元からは事業の早期完成を強く要望されている。	継続
2	地盤沈下対策事業	下板	松茂町	4,061	451.0	幹支線水路 φ1200~400, L=6800m φ400~200, L=27500m (サ休) φ1200, L=200m 揚水機場 10箇所 末端配管 423ha	H26	5	②	13%	本地区は、旧来から周辺地域での地下水の過剰なくみ上げによる地盤沈下が生じており、用水路の縦断勾配の変動や通水断面の不足等により、その機能は低下し、応急対策では解決できない現状である。 そこで、本計画では国営農地防災事業を契機とし、地区内用水路の恒久的地盤対策として農業用用水路をパイプライン化し、これらの問題を解消するものであり、地元からは早期完成を強く要望されている。	継続
3	地すべり対策事業	木頭2期	那賀町	185	182.9	排水路工L=455m 承水路工L=330m 排水ボーリング L=2560m 土留工 N=1箇所 アンカー工 N=1箇所	H26	5	②	57%	本地区は、那賀川本流両岸の河岸段丘及び急斜面に位置している。地下水の上昇に起因する地すべりが慢性的に発生しており、農地に生じた亀裂等により営農に支障をきたすと共に、家屋、道路等への被害も生じている。このため、早急に対策を行い、農業生産及び農村地域の安全性の維持を図る。 那賀町及び地元は、早期完成を強く要望している。	継続
4	地すべり対策事業	木沢2期	那賀町	750	239.3	排水路工L=1,150m 承水路工L=1,940m 排水ボーリング L=3505m 土留工 N=6箇所 アンカー工 N=2箇所 集水井工 N=1箇所 杭 工 N=1箇所	H26	5	②	17%	本地区は、那賀川支川の坂州木頭川の河岸段丘及び急斜面に位置している。地下水の上昇に起因する地すべりが慢性的に発生しており、農地に生じた亀裂等により営農に支障をきたすと共に、家屋、道路等への被害も生じている。このため、早急に対策を行い、農業生産及び農村地域の安全性の維持を図る。 那賀町及び地元は、早期完成を強く要望している。	継続
5	広域営農団地農道整備事業	徳島東部3期	徳島市 勝浦郡勝浦町 勝浦郡上勝町 名東郡佐那河内村	3,590	1,806	農道工4,327m	H16	15	⑥	93%	本地区は、農業従事者の高齢化と農業後継者の不足により営農状況が厳しくなってきた。このため、基幹農道の整備により、輸送体系の合理化による輸送労力の節減及び営農労力の節減を図ることが重要であり、関係市町村、地元受益農家からは、早期完成を強く要望されている。	継続
6	経営体育成基盤整備事業	大幸	鳴門市	1,006	53.3	排水路工3,957m 農道工1,446m	H21	10	③	81%	本地区は、レンコンが主要な農作物となっているが、現況水路が土水路であり排水能力が不足している。また農道も未舗装かつ幅員が狭小であることから、レンコンの荷傷みによる品質低下が生じている。このため引き続き本事業による排水条件の改善や農道の拡幅が必要である。安定した営農の確立のため、地元受益者や鳴門市からは事業の早期効果の発現を要望されている。	継続
7	かんがい排水事業	上板	上板町	2,669	278.0	排水路工 L=1,060m	H6	26	⑥	59%	本地区では、米作を主軸として洋人参、大豆等の露地野菜や茄子等の施設園芸による複合経営が定着している。 このため、引き続き本事業により六条暗渠の通水能力を増大させ、排水条件を改良することにより、営農労力を節減し、生産性の高い農業経営を実現する必要がある。	継続

評価対象の区分

- ①事業採択後5年間を経過した時点で未着工の事業箇所
- ②事業採択後5～9年間を経過した時点で継続中の事業箇所
- ③事業採択後10年間を経過した時点で継続中の事業箇所
- ④事業採択後の準備・計画段階で5年間を経過している事業箇所
- ⑤その他社会経済情勢の変化により再評価が必要となった事業箇所
- ⑥再評価後5年間を経過した時点で継続中の事業箇所

平成30年度 再評価対象事業一覧表（森林整備・県事業）

番号	事業名	路線名	市町村名	基本緒元（全体事業・利用区域面積・延長等）			事業採択	経過年数	区分	工事進捗率（%）	事業を巡る社会経済情勢の変化及び地元状況等	対応方針
				全体事業費 百万円	利用区域面積 h a	延長 m						
8	林道開設事業	禪僧線	海陽町	3,240	1,052	12,000	H16	15	⑥	18%	<p>本県では、充実してきた森林資源を背景に、「新次元林業プロジェクト」を展開しており、平成36年度(2024年)までに「県産材の生産量・消費量を60万m³/年」を戦略目標の一つとしている。森林資源の更なる利用を図り、高まる木材需要に対応するため、県産材の一層の増産と、それを担う人材育成が急務であり、生産性のさらなる向上を図るため、本格的な主伐にも対応した「新林業生産システム」として「高性能林業機械の大型化」とともに、搬出量の増加に対応する路網整備が重要な課題である。</p> <p>当林道は、海部郡海陽町神野の国道193号から分岐した林道「荒谷線」と「神野岡本線」の接続部を起点として、海陽町大比の林道「大木屋小石川線」へと連絡する森林基幹道であり、災害時における県道や町道の不通時には、大比、平井集落の迂回路等としての役割を担う。</p> <p>また、今年度より、当林道との接続する林業専用道「木戸ヶ谷支線」の開設工事着手を予定しており、当林道と連絡することにより、施工の効率化及び、森林整備の促進が図られる。</p> <p>当区域は、海部川上流の急峻な地形に広がる広大な森林を有し、禪僧スギとして有名なスギの古木が密集する、森林資源の豊かな区域であり、海部川下流域の集落等への重要な水源区域でもある。</p>	継続
9	林道開設事業	生実八重地線	上勝町	4,522	1,326	17,700	S62	32	⑥	74%	<p>本県では、充実してきた森林資源を背景に、「新次元林業プロジェクト」を展開しており、平成36年度(2024年)までに「県産材の生産量・消費量を60万m³/年」を戦略目標の一つとしている。森林資源の更なる利用を図り、高まる木材需要に対応するため、県産材の一層の増産と、それを担う人材育成が急務であり、生産性のさらなる向上を図るため、本格的な主伐にも対応した「新林業生産システム」として「高性能林業機械の大型化」とともに、搬出量の増加に対応する路網整備が重要な課題である。</p> <p>当林道は、上勝町の中西部に位置する山犬嶽から高丸山に続く稜線を通過する森林基幹道で、周辺の県道、町道、林道に連絡することにより、搬出間伐等、地域林産業の振興に寄与している。また、緊急時の避難路及び迂回路の機能も持ち合わせることもからも注目され、町や地元関係者から事業推進に関する要望が強く、期成同盟会を組織するなど全面的な支援体制が構築されている。</p>	継続
10	林道開設事業	大川原旭丸線	上勝町 神山町 佐那河内村	2,905	1,020	16,240	H3	28	⑥	96%	<p>本県では、充実してきた森林資源を背景に、「新次元林業プロジェクト」を展開しており、平成36年度(2024年)までに「県産材の生産量・消費量を60万m³/年」を戦略目標の一つとしている。森林資源の更なる利用を図り、高まる木材需要に対応するため、県産材の一層の増産と、それを担う人材育成が急務であり、生産性のさらなる向上を図るため、本格的な主伐にも対応した「新林業生産システム」として「高性能林業機械の大型化」とともに、搬出量の増加に対応する路網整備が重要な課題である。</p> <p>当林道は、佐那河内村大川原高原から神山町、上勝町稜線沿いを通過し町道剣山線（旧スーパー林道）に至る森林基幹道であり、周辺の町道、林道、作業道と連絡することから、効果的に搬出間伐等森林整備が進み、地域林産業の骨格道として、また災害の避難路、迂回路としての機能も注目されている。そのため、関係町村をはじめ地元から事業の早期完成が強く望まれている。</p>	継続
11	林道開設事業	岩倉蟬谷線	那賀町	4,040	1,729	19,340	S62	32	⑥	86%	<p>本県では、充実してきた森林資源を背景に、「新次元林業プロジェクト」を展開しており、平成36年度(2024年)までに「県産材の生産量・消費量を60万m³/年」を戦略目標の一つとしている。森林資源の更なる利用を図り、高まる木材需要に対応するため、県産材の一層の増産と、それを担う人材育成が急務であり、生産性のさらなる向上を図るため、本格的な主伐にも対応した「新林業生産システム」として「高性能林業機械の大型化」とともに、搬出量の増加に対応する路網整備が重要な課題である。</p> <p>当林道は、旧木沢村と旧木頭村の境界周辺の人工林等を適切に整備するため計画された林道である。周辺森林は、路網が未整備であることから、間伐等の森林整備が十分に行き届かない森林があり、森林資源の高度利用のためにも森林所有者からの林道整備要望が強い。</p> <p>また、急峻な地形などから、残土処理施設の確保に苦慮しているものの、路線計画の見直しなどで柔軟に対応し、こうした課題の解決に努め、開設コストの縮減等により早期完成を目指している。</p>	継続

平成30年度 再評価対象事業一覧表（森林整備・県事業）

番号	事業名	路線名	市町村名	基本緒元（全体事業・利用区域面積・延長等）			事業採択	経過年数	区分	工事進捗率（%）	事業を巡る社会経済情勢の変化及び地元状況等	対応方針
				全体事業費 百万円	利用区域面積 h a	延長 m						
12	林道開設事業	ながやすかいかわせん 長安海川線	那賀町	4,982	2,106	30,404	S62	32	⑥	64%	本県では、充実してきた森林資源を背景に、「新次元林業プロジェクト」を展開しており、平成36年度(2024年)までに「県産材の生産量・消費量を60万m ³ /年」を戦略目標の一つとしている。森林資源の更なる利用を図り、高まる木材需要に対応するため、県産材の一層の増産と、それを担う人材育成が急務であり、生産性のさらなる向上を図るため、本格的な主伐にも対応した「新林業生産システム」として「高性能林業機械の大型化」とともに、搬出量の増加に対応する路網整備が重要な課題である。 当林道は、旧上那賀町中央部の森林資源が充実した地域を整備するため計画された林道である。資源利用可能な森林が多くあることなどから、路網整備への森林所有者の要望が強いほか、地域の主要道である国道193号と国道195号の災害時等の迂回路となることから、地域の交通ネットワークとしての役割も期待されている。	継続
13	林道開設事業	よこいしたにやません 横石谷山線	那賀町	4,050	1,197	18,100	H5	26	⑥	66%	本県では、充実してきた森林資源を背景に、「新次元林業プロジェクト」を展開しており、平成36年度(2024年)までに「県産材の生産量・消費量を60万m ³ /年」を戦略目標の一つとしている。森林資源の更なる利用を図り、高まる木材需要に対応するため、県産材の一層の増産と、それを担う人材育成が急務であり、生産性のさらなる向上を図るため、本格的な主伐にも対応した「新林業生産システム」として「高性能林業機械の大型化」とともに、搬出量の増加に対応する路網整備が重要な課題である。 当林道は、那賀町(旧相生町、旧上那賀町)にある、スギを中心とする森林資源が充実した人工林地帯に施工中の林道である。 林業プロジェクトにより森林資源の有効活用が進む一方で、林道などの路網が未整備の地域においては、森林整備や森林資源の活用が十分進んでいないことなどから、林道整備への森林所有者の要望が強い。	継続
14	林道開設事業	ほしごえこうべまるせん 星越神戸丸線	那賀町	4,358	1,008	16,200	H5	26	⑥	69%	本県では、充実してきた森林資源を背景に、「新次元林業プロジェクト」を展開しており、平成36年度(2024年)までに「県産材の生産量・消費量を60万m ³ /年」を戦略目標の一つとしている。森林資源の更なる利用を図り、高まる木材需要に対応するため、県産材の一層の増産と、それを担う人材育成が急務であり、生産性のさらなる向上を図るため、本格的な主伐にも対応した「新林業生産システム」として「高性能林業機械の大型化」とともに、搬出量の増加に対応する路網整備が重要な課題である。 当林道は、旧上那賀町と旧木頭村の境界稜線周辺の森林地帯に整備中の林道で、周辺は成熟した森林資源を有する森林が広がる林業地帯となっている。 新次元林業プロジェクトの推進により県産材の増産を進めていることから当林道への期待は大きく、森林所有者からの要望も強い。 また、林道整備に伴い、未整備森林の整備が促進され、資源利用の活性化が図られるほか、災害時における迂回路機能の確保など多くの効果が期待されている。	継続
15	林道開設事業	かじやまうらとこせん 梶山内田線	美馬市	4,785	1,461	18,556	H4	27	⑥	59%	本県では、充実してきた森林資源を背景に、「新次元林業プロジェクト」を展開しており、平成36年度(2024年)までに「県産材の生産量・消費量を60万m ³ /年」を戦略目標の一つとしている。森林資源の更なる利用を図り、高まる木材需要に対応するため、県産材の一層の増産と、それを担う人材育成が急務であり、生産性のさらなる向上を図るため、本格的な主伐にも対応した「新林業生産システム」として「高性能林業機械の大型化」とともに、搬出量の増加に対応する路網整備が重要な課題である。 当林道は、供用開始した区間を利用して、平成4年度から平成29年度までに、延べ795haの森林において下刈りや除間伐等の施策が実施されている。今後、供用区間の増加に伴い、「新次元林業プロジェクト」により、さらなる森林の整備や保全のための施策が進んでいく見込みである。 また、適正な森林整備を行う上で、骨格となる当林道に対する期待と要望は非常に大きいことに加え、5つの林道に接続し、国道や県道にも接続するなど、災害等緊急時の迂回路としても利用できることから、地元美馬市をはじめ森林所有者等からは、早期完成を強く要望されている。	継続

平成30年度 再評価対象事業一覧表（森林整備・県事業）

番号	事業名	路線名	市町村名	基本緒元（全体事業・利用区域面積・延長等）			事業採択	経過年数	区分	工事進捗率（%）	事業を巡る社会経済情勢の変化及び地元状況等	対応方針
				全体事業費 百万円	利用区域面積 h a	延長 m						
16	林道開設事業	田野内杖立線	美馬市	4,946	1,248	19,850	H5	26	⑥	62%	<p>本県では、充実してきた森林資源を背景に、「新次元林業プロジェクト」を展開しており、平成36年度(2024年)までに「県産材の生産量・消費量を60万m³/年」を戦略目標の一つとしている。森林資源の更なる利用を図り、高まる木材需要に対応するため、県産材の一層の増産と、それを担う人材育成が急務であり、生産性のさらなる向上を図るため、本格的な主伐にも対応した「新林業生産システム」として「高性能林業機械の大型化」とともに、搬出量の増加に対応する路網整備が重要な課題である。</p> <p>当林道は、供用開始した区間を利用して、平成5年度から平成29年度までに、延べ724haの森林において下刈りや除間伐等の施策が実施されている。今後、供用区間の増加に伴い、「新次元林業プロジェクト」により、さらなる森林の整備や保全のための施策が進んでいく見込みである。</p> <p>また、適正な森林の整備を行う上で、骨格となる当林道に対する期待と要望は非常に大きいことに加え、5つの林道に接続し、国道にも接続するなど、災害等緊急時の迂回路としても利用できることから、地元美馬市をはじめ森林所有者等からは、早期完成を強く要望されている。</p>	継続
17	林道開設事業	川崎国見山線	三好市	6,400	2,356	20,840	S61	33	⑥	73%	<p>本県では、充実してきた森林資源を背景に、「新次元林業プロジェクト」を展開しており、平成36年度(2024年)までに「県産材の生産量・消費量を60万m³/年」を戦略目標の一つとしている。森林資源の更なる利用を図り、高まる木材需要に対応するため、県産材の一層の増産と、それを担う人材育成が急務であり、生産性のさらなる向上を図るため、本格的な主伐にも対応した「新林業生産システム」として「高性能林業機械の大型化」とともに、搬出量の増加に対応する路網整備が重要な課題である。</p> <p>当林道は、三好市山城町下川の国道32号を起点とし、同市西祖谷村尾井ノ内の市道尾井ノ内後山線を終点とする林道である。利用区域内の人工林面積は1674haあり、そのうち利用伐期齢以上の蓄積が約87万立方があるが、木材価格の低迷や高い木材搬出コストなどの課題があり、利用可能な資源が十分活用されていない。当林道は、低コストで効率的な森林の施策や管理を進めるために必要な施設であり、三好市をはじめ森林所有者等も当林道の早期完成を強く望んでいる。</p>	継続
18	林道開設事業	日和茶坂瀬線	三好市	6,250	3,466	32,700	H2	29	⑥	75%	<p>本県では、充実してきた森林資源を背景に、「新次元林業プロジェクト」を展開しており、平成36年度(2024年)までに「県産材の生産量・消費量を60万m³/年」を戦略目標の一つとしている。森林資源の更なる利用を図り、高まる木材需要に対応するため、県産材の一層の増産と、それを担う人材育成が急務であり、生産性のさらなる向上を図るため、本格的な主伐にも対応した「新林業生産システム」として「高性能林業機械の大型化」とともに、搬出量の増加に対応する路網整備が重要な課題である。</p> <p>当林道は、三好市東祖谷落合の県道三加茂東祖谷山線を起点とし、同市西祖谷山村坂瀬の県道腕山宮石線を終点とする林道である。利用区域内の人工林面積は、民有林・国有林合わせて1767haあるが、高齢化と過疎化により手入れの十分行き届かない森林が増加している。こうした状況の中、当林道の開設は、森林の適正な管理や保全、効率的な森林施策を進めるために必要な施設であり、三好市をはじめ森林所有者等も事業の早期完成を強く望んでいる。</p>	継続

評価対象事項の区分

- ①事業採択後5年間を経過した時点で未着工の事業箇所
- ②事業採択後5～9年間を経過した時点で継続中の事業箇所
- ③事業採択後10年間を経過した時点で継続中の事業箇所
- ④事業採択後の準備・計画段階で5年間が経過している事業箇所
- ⑤その他社会経済情勢の変化により再評価が必要となった事業箇所
- ⑥再評価後5年間を経過した時点で継続中の事業箇所

平成30年度再評価対象事業一覧表（県土整備部関係事業・県及び市町村事業）

番号	事業名	事業者	路線名・河川名等	市町村名	基本諸元			事業採択経過		進捗率(%)		事業を巡る社会経済情勢・地元状況の変化等	対応方針
					全体事業費 C(百万円)等	年度	年数	区分	事業費	用地			
1	緊急地方道路整備事業	徳島県	一般国道193号 海川谷バイパス	那賀町	L=2,370m, W=5.5(7.0)m C=3,110百万円	H11	20	⑥	48	42	当路線は、香川県高松市から徳島県那賀郡那賀町を經由し、海部郡海陽町に至る幹線道路で第3次緊急輸送道路に指定されている。当該区間は地域の住民生活を支える重要な道路であるが、幅員狭小で線形不良区間も連続し、交通の隘路となっていることから、当該事業により安全で円滑な交通を確保する。平成35年度(2023年度)の供用を目指している。	見直して継続	
2	道路改築事業	徳島県	一般国道438号 上八万バイパス	徳島市～ 佐那河内村	L=5,500m W=6.5(10.5)～6.5(15.0)m C=12,500百万円	S63	30	⑥	71	96	当路線は、徳島県徳島市から佐那河内村を經由し、香川県坂出市に至る幹線道路で第2次緊急輸送道路に指定されている。当該区間は朝夕を中心に渋滞が発生し、円滑な通行に支障をきたすとともに、交通事故が多発していることから、当該事業により安全で円滑な交通を確保する。	継続	
3	緊急地方道路整備事業	徳島県	主要地方道 鳴門公園線 土佐泊浦～三ツ石工区	鳴門市	L=1,600m, W=6.5(11.75)m C=4,300百万円	H16	15	⑥	19	55	当路線は、鳴門公園から国道11号に至る延長約9kmの幹線道路であり、本州四国連絡道路鳴門北ICへのアクセス道路となる路線である。 当該工区は、鳴門公園から国道11号までを連絡する区間のうち、黒山地区から三ツ石地区を整備する事業であり、当該工区の間により、鳴門公園周辺の観光交流基盤の形成や地域防災力の向上を図る。平成37年度(2025年度)に暫定2車線による供用を目指している。	継続	
4	緊急地方道路整備事業	徳島県	一般県道 徳島東インター線 北沖洲工区	徳島市	L=1,100m W=13.0(22.0) C=580百万円	H28	2	⑤	40	100	当路線は、四国横断自動車道「(仮)徳島東IC」と徳島市中心部を結ぶアクセス道路で、京阪神地域及び徳島県南部地域などとの社会活動圏域の拡大に寄与するものである。 また、アクセス道路となる既存道路を4車線化し、四国横断自動車道との一体化を図り、第1次緊急輸送道路としての機能を強化するものである。 これらの整備効果を早期に発現させるため、平成32年度(2020年度)に供用を目指している。	継続	
5	緊急地方道路整備事業	徳島県	一般県道 津田インター線 津田工区	徳島市	L=1,500m ランプ部 W=7.0(8.5) 一般部 W=7.0(13.0) C=3,010百万円	H27	3	⑤	40	95	当路線は、四国横断自動車道と連結する「(仮)津田IC(地域活性化IC)」と主要幹線道路である徳島小松島線を結ぶアクセス道路で、木材団地として整備された「重要港湾 徳島小松島港(津田地区)」の活性化を支援し、当該地周辺に新たな産業・流通拠点を創出させるなど、ストック効果の最大化を図る役割を担っている。 これらの整備効果を早期に発現させるため、平成32年度(2020年度)の供用を目指している。	継続	
6	緊急地方道路整備事業	徳島県	都市計画道路 東吉野町北沖洲線	徳島市	L=2,882m, W=21.0m C=13,200百万円	S56	37	⑥	93	94	当路線は、主要幹線である一般国道11号と徳島市北沖洲を結び、一般国道11号の渋滞対策やマリニピア沖洲へのアクセス道路としての役割を担う放射道路である。当路線の整備により、徳島市中心部の渋滞緩和に大きく寄与するとともに、重要港湾徳島小松島港や四国横断自動車道徳島東IC(仮称)へのアクセス強化が図れることから、平成35年度(2023年度)の供用を目指している。	継続	
7	広域河川改修事業	徳島県	飯尾川	徳島市 石井町 吉野川市	L=24,100m 河道拡幅 C=25,000百万円	S34	60	⑥	83	59	当河川は、吉野川水系の河川であり、平成16年、21年、23年、26年において浸水被害が発生した。全体改修延長24.1kmのうち2箇所(約19km)の放水路を含む約19kmの整備が概成しているが、残る上流部の河道断面が狭く、早期改修を望む地元からの要望が強い。平成45年度(2033年度)の完成を目指している。	継続	

番号	事業名	事業者	路線名・河川名等	市町村名	基本諸元		事業採択経過		進捗率(%)		事業を巡る社会経済情勢・地元状況の変化等	対応方針
					全体事業費 C(百万円)等	年度	年数	区分	事業費	用地		
8	広域河川改修事業	徳島県	そのせがわ 園瀬川	徳島市	L=7,515m 築堤 C=20,200百万円	S21	73	⑥	84	91	当河川は、吉野川水系の河川であり、平成16年、21年、23年において浸水被害が発生した。全体改修延長7.5kmのうち下流から約4.5kmが概成しているが残る上流部の無堤区間においては、流下能力が不足しているため、早期改修を望む地元からの要望が強い。平成39年度(2027年度)の完成を目指している。	継続
9	広域河川改修事業	徳島県	たたらがわ 多々羅川	徳島市	L=4,560m 河道拡幅 C=8,300百万円	S54	40	⑥	63	46	当河川は、吉野川水系の河川であり、平成16年において浸水被害が発生した。全体改修延長4.6kmのうち下流から約3.1kmが完成しているが、残る上流部の河道断面が狭く、早期改修を望む地元からの要望が強い。平成38年度(2026年度)の完成を目指している。	継続
10	総合流域防災事業	徳島県	たつえがわ 立江川	小松島市	L=3,000m 河道拡幅 C=4,500百万円	S63	31	⑥	68	57	当河川は、平成16年、21年、26年において浸水被害が発生した。全体改修延長3.0kmのうち、下流から平成橋上流まで約2.0kmが概成しているが、残る上流部の河道断面が狭く、早期改修を望む地元からの要望が強い。平成40年度(2028年度)の完了を目指している。	継続
11	総合流域防災事業	徳島県	ほたるがわ ほたる川	吉野川市	L=3,280m 河道拡幅 C=4,600百万円	S49	45	⑥	87	98	当河川は、吉野川水系の河川であり、平成16年、21年、23年において浸水被害が発生した。全体改修延長約3.3kmのうち、前川橋までの約2.9kmが概成しているが、残る上流部の河道断面が狭く、早期改修を望む地元からの要望が強い。平成37年度(2025年度)の完成を目指している。	継続
12	総合流域防災事業	徳島県	ししくいがわ 宍喰川	海陽町	L=3,560m 築堤 C=3,600百万円	S37	57	⑥	76	100	当河川は、平成18年、22年、26年において浸水被害が発生した。全体改修延長約3.6kmのうち、馳場大橋まで約3.0kmが概成しているが、残る上流部の河道断面が狭く、早期改修を望む地元からの要望が強い。平成35年度(2023年度)の完成を目指している。	継続
13	海岸侵食対策事業	徳島県	いまづきまの 今津坂野海岸	小松島市 阿南市	L=6,637m 大型突堤工、養浜工、 緩傾斜護岸工 C=12,332百万円	S36	58	⑥	74	—	当海岸は、県東部の小松島市と阿南市にある南北に延びた延長約6.6kmの海岸である。漂砂のバランスが崩れ海岸侵食が進み、台風等の暴風時には、波しぶきが飛散してくるなど背後地の生活に脅威を与えていることから、当事業により海浜及び背後地の面的防護を図るものである。平成49年度(2037年度)の完了を目指している。	継続
14	地すべり対策事業	徳島県	こい 古井	吉野川市	横ボーリング工、水路工 C=450百万円	H21	10	③	82	100	本地区は、吉野川市美郷に位置し、人家18戸、国道193号1,250m、市道3,450mなどが存在する。斜面状況は、市道擁壁の変状やブロック積み目地のズレなど地すべり兆候が多数発見され、また、湧水もあることから、地すべりの危険性が高い。人家や地域防災計画に位置づけられた避難路の保全等を目的に平成21年度より事業着手しており、平成32年度(2020年度)の完成を目指している。	継続
15	地すべり対策事業	徳島県	あなぶきさるかい 穴吹猿飼	美馬市	横ボーリング工、 水路工、集水井 C=650百万円	H16	15	⑥	78	100	本地区は、美馬市穴吹町に位置し、人家10戸、市道(避難路)2,450m、耕地9.6haが存在する。斜面状況は、民家土間コンや町道路面の変状など地すべり兆候が多数発見され、湧水もあることから、地すべりの危険性が高い。人家や地域防災計画に位置づけられた避難路の保全等を目的に平成16年度より事業着手しており、平成33年度(2021年度)の完成を目指している。	継続
16	地すべり対策事業	徳島県	くびの 首野	美馬市	横ボーリング工、水路工 C=540百万円	H16	15	⑥	82	100	本地区は、美馬市穴吹町に位置し、人家15戸、一般国道492号1,310m、市道(避難路)4,430m、耕地7.8haなどが存在する。斜面状況は、石積のはらみだしや民家土間コンのクラックなど地すべり兆候が多数発見されており、地すべりの危険性が高い。人家や地域防災計画に位置づけられた避難路の保全等を目的に平成16年度より事業着手しており、平成32年度(2020年度)の完成を目指している。	継続

番号	事業名	事業者	路線名・河川名等	市町村名	基本諸元			事業採択経過		進捗率(%)		事業を巡る社会経済情勢・地元状況の変化等	対応方針
					全体事業費 C(百万円)等	年度	年数	区分	事業費	用地			
17	地すべり対策事業	徳島県	あるせ有瀬	三好市	横ボーリング工, 水路工, アンカー工, 集水井 C=3,200百万円	S46	48	⑥	85	100	本地区は、三好市西祖谷山村に位置する地すべり防止区域で、保全対象には人家や市道に加えて、JR土讃線や避難所である旧有瀬小学校などがある。有瀬地区の斜面では、市道擁壁や路面にクラックなどの変状が多数発見され、地すべり活動が活発である。このため、本事業により地域集落の安全を確保するとともに、重要交通網であるJR土讃線を保全するため昭和46年度より事業着手しており、平成38年度(2026年度)の完成を目指している。	継続	
18	地すべり対策事業	徳島県	おぎのき 杉の木	三好市	横ボーリング工, 水路工 C=440百万円	H21	10	③	90	100	本地区は、三好市井川町に位置し、人家73戸、杉の木分館、井内小学校体育館(避難所)などが存在する。斜面状況は、民家の変状や市道擁壁の亀裂が多数発見され、湧水もあることから、地すべりの危険性が高く、早急な対策を講じる必要があった。人家の保全や井内谷の埋塞防止等を目的に平成21年度より事業着手しており、平成31年度の完成を目指している。	継続	
19	地すべり対策事業	徳島県	おおつと 大藤	東みよし町	横ボーリング工, 水路工, アンカー工 C=740百万円	H21	10	③	74	100	本地区は、三好郡東みよし町に位置し、人家76戸、旧大藤小学校(避難所)、町道8,560mなどが存在する。平成17年9月の台風14号豪雨により地すべり災害が発生している。地区内の斜面状況は、町道擁壁の亀裂や民家の変状等の地すべり兆候が多数発見され、湧水もあり、地すべり拡大の恐れがあるため、早急な対策を講じる必要があった。人家及び避難所の保全等を目的に平成21年度より事業着手しており、平成34年度(2022年度)の完成を目指している。	継続	
20	急傾斜地崩壊対策事業	徳島県	かしのち 檜瀨	勝浦町	擁壁工, 法面工 C=626百万円	H21	10	③	68	100	本地区は、勝浦郡勝浦町に位置し、保全対象には、人家34戸、事業所3戸、主要地方道徳島上那賀線及び町道が含まれる。このことから、急傾斜地崩壊防止施設の設置等を行うことによって、急傾斜地の崩壊による災害から住民の生命を保護し、もって民生の安定と国土の保全とに資することを目的とする。平成33年度(2021年度)の完成を目指している。	継続	
21	港湾改修事業	徳島県	としままつしまこう 徳島小松島港 沖洲地区 おきのすちく りんこう どうろ おきのす そと せん 臨港道路沖洲(外)線	徳島市	L=1,410m, W=13.0(21.0)m C=4,000百万円	H6	25	⑥	92	100	当路線は、市街地からマリンピア沖洲へと連絡する区間であり、現在ある沖洲(外)中央線及び沖洲(外)南線の交通を分散させ、交通の円滑化を図るために事業を実施している。平成22年3月に900mの区間において暫定供用を開始し、残る区間について、平成31年度の完成供用を目指している。	継続	

※【区分欄】

評価対象事項の①～⑦の区分

- ① 事業採択後5(3)年目で未着工の事業箇所
- ② 事業採択後5年目で継続中の事業箇所(補助事業、砂防事業)
- ③ 事業採択後10年目で継続中の事業箇所(交付金事業等)
- ④ 事業採択後の準備・計画段階で5年間が経過している事業箇所
※①、⑥の()は砂防事業の場合
※②について、砂防事業はH28から事業評価サイクルの見直し(10年継続中→5年継続中)を行ったため、経過年数が6～9年目を含む
- ⑤ その他、社会経済情勢の変化等により見直しが必要な事業箇所
- ⑥ 再評価後5(3)年間を経過した事業
- ⑦ 事後評価対象

平成30年度事後評価対象事業一覧表（県土整備部関係事業・県及び市町村事業）

番号	事業名	事業者	路線名・河川名等	市町村名	基本諸元		事業採択年度	経過年数	区分	進捗率(%)		事業を巡る社会経済情勢・地元状況の変化等
					全体事業費 C(百万円)等					事業費	用地	
1	地すべり対策事業	徳島県	菅生	三好市	横ボーリング工 C=101百万円		H21	9	⑦	-	-	本地区は、三好市東祖谷に位置し、人家43戸、国道1,380m、市道1,920m、旧菅生小学校（避難所）などが存在する。斜面状況は、市道擁壁の亀裂や石積みの押し出し等の地すべり兆候が多数発見され、湧水もあることから、地すべりの危険性が高かった。人家や避難所の保全を目的に平成21年度に事業着手し、平成29年5月に完成した。
2	急傾斜地崩壊対策事業	徳島県	馬路	三好市	擁壁工 L=171m C=118百万円		H26	4	⑦	-	-	本地区は、三好市池田町に位置する急傾斜地崩壊危険区域である。保全対象に人家2戸、馬路小学校（避難所）、馬路幼稚園（要配慮者利用施設）を含む。平成26年度に事業着手し平成30年3月に完成した。
3	旧吉野川流域下水道事業	徳島県	旧吉野川流域下水道	徳島市 鳴門市 松茂町 北島町 藍住町 板野町	処理場 1 式 幹線管渠 L=約41km C=60,000百万円		H12	16	⑦	-	-	当施設は、旧吉野川流域2市4町の汚水処理を担う下水道の根幹施設として平成13年度から工事着手し、第1次施設整備期間の平成22年度までに水処理施設の電気・機械設備1/16（土木施設2/16）と幹線管渠L=24.7kmが整備された。施設は平成21年度から一部供用が開始されている。今回、平成29年度に更新される生活排水処理構想を受けて事後評価を行う。